

B S E に関するリスクのクラス分類表

(1) 考え方

原料にBSE感染牛由来の臓器等が用いられるリスクの確率

- ・ 発生国・リスクの高い国を原産国としているか。
- ・ 臓器を多数収集する等の濃縮により、リスクが高まるか。

使用部位のリスク分類

- ・ リスクの高いウシの部位を使用しているか。

製品中の残留割合、投与経路（適用部位）等による安全性（暴露レベル）

- ・ 成分が製品中で希釈されているもの、皮膚に適用するものは低いレベル。

(2) より实际的なリスクの推定

（感染牛、発生国・リスク国、危険部位、曝露のクライテリアによる分類）

	区分	類型	原料		リスクの目安
			地域	部位	
あり ↑	リスクの起点	BSE感染牛の危険部位			1
		BSE感染牛+危険部位以外			1/1万
リスク ↓	区分（イ）	発生国等+危険部位（高曝露）			1/1万（注）
		発生国等以外+危険部位（高曝露）			1/100万（注）
	区分（ロ）	発生国等+危険部位（低曝露）			1/1億
		発生国等+危険部位以外		-	1/1億
区分（ハ）	発生国等以外+危険部位（低曝露）	-		1/100億	
なし	区分（ニ）	発生国等以外+危険部位以外	-	-	1/

注： は、仮に感染した動物の原料を使用していたと仮定した場合、当該製品に、理論的には感染リスクが薄まらずに存在することとなり、それが流通する場合を想定した保健衛生上のインパクトが大きいものである。また、原料プールでの部位の混合等によりリスクが増大するなどの影響を受けやすいとも考えられる。（例えば、100個の危険部位臓器を採取する場合は、 $100 \times 1/100万 = 1/1万$ となる。）